障害のある児童などが参加しやすいよう配慮している主な児童館・プログラム一覧

No.	所在地	児童館名	プログラム名	具体的内容
1	宮城県仙台市	茂庭台児童館	お金マイスター	児童館で行うほとんどの行事に、障害をもっている子どもも参加できるように考えている。障害の程度により、参加の仕方・ルールなどを工夫している。
2	東京都杉並区	杉並区立堀ノ内東児童館	～きらきらタイム～　障がいのない子もある子も一緒にあそぼう♪	障害の有無に関わらず、みんなが楽しめる手話ソング・工作・料理等の交流プログラムを月2回行っている。子ども自身がやりたいことを取り入れ、ボランティアの力も活かし、様々な体験ができる。
3	東京都新宿区	北新宿第一児童館	ふれあい動物園	障害のある児童もない児童も普段接することのできない動物とふれあうことで交流します。
4	愛知県名古屋市	とだがわこどもﾗﾝﾄﾞ	ドレミであそぼう	障がいのある未就学の子どもとお母さんが一緒になって音楽を聴いたり、歌ったり、楽器を鳴らしたりする中で、からだを刺激し、生活をより豊かにしていくための手助けをするプログラム。
5	京都府京都市	北白川児童館	「『いきいき遊び』ー木とリスー」ー障害のある子と一緒にー	三人一組となってそのうち二人が向かい合って手をつなぎ「木」に、一人がその木に囲まれた「リス」に、木とリス以外の1名が「オニ」となり「オニ」の発する掛け声に合わせて移動し、木かリスにおさまることを競って楽しみ、発達に遅れのある子どもも一緒に楽しめる遊びである。
6	京都府京都市	たかつかさ児童館	和太鼓	本来のリズムではなくても、基本の打ち方で参加できる演目を捜し、みんなでたたく楽しさを味わっている。最初と最後をしっかり合わせるだけで可能なので、「一緒にやった達成感」を体験できるプログラムになっている。
7	兵庫県神戸市	上野児童館	街歩きお散歩探検	発達障害の児童を対象として、その児童の興味を持つものを中心に街をめぐります。
8	大分県日出町	日出町児童館	障がい児の余暇支援活動	スポーツチャンバラ、野外活動、音楽活動など

宮城県仙台市
茂庭台児童館

～支援の必要な子どもも一緒に楽しく　お金マイスター　～

概　要

放課後児童クラブに登録している児童も自由来館で遊びに来る児童も、同じように児童館を利用し，行事に参加している。もちろんその中には、支援の必要な子どもも含まれている。

高学年のリーダーを中心に，グループ活動で楽しくお金の仕組みを知るゲーム遊びを行う。

「お金マイスター」とは、子どもたちがグループに分かれてお金についてのクイズを解き、お金の成り立ち（物々交換をしながら、布を作る材料を揃える等）を楽しみながら体験でき、お金の大切さに気づいた後、最後に働いてくれる親へのメッセージや自分が取り組めるお金を大切にする決意を書く。

ポイント

〇支援の必要な児童の情報を日頃から、小学校の授業参観や情報交換の場を利用して，支援の程度などの情報を得られるようにしている。

〇参加した児童の状況を見て，遊びのルールを変更したり，高学年をリーダーにして支援の必要な子を含めてグループ活動をすることにより，子どもたち同士で助け合って取り組みができるようにしている。

〇教材などの準備を工夫して，他の児童と差がなくできあがるように工夫をしている。

取組の効果

〇遊びのルールの変更は，支援の必要な児童だけではなく、異年齢の児童が集まる児童館においては低学年の子どもも安心して遊べるようになる。

〇高学年の子どもをリーダーにしたグループ活動は，役割を持たせることにより支援の必要な子どもや低学年の子どもの面倒を見てくれ、お互いに協力をしながら課題に取り組むことができる。

〇グループにただいるだけの状態でも，他の子どもと一緒に動いたり，その子どもなりに楽しむことができる。

東京都杉並区
杉並区立堀ノ内東児童館

～きらきらタイム～ 障がいのない子もある子も一緒にあそぼう♪

概　要

児童館のグループ活動として、「きらきらタイム」を月2回行っている。事前登録のメンバー制で、手話ソング・工作・表現・音楽・料理など多様なプログラムを実施している。障害の有無に関わらず、みんなが楽しめる交流プログラムを考えている。また、子どもの参画や、ボランティアとの協働もしている。子ども自身がやりたいことを取り入れ、ボランティアの力も活かすことで、様々な体験ができて活動の幅も広がっている。

ポイント

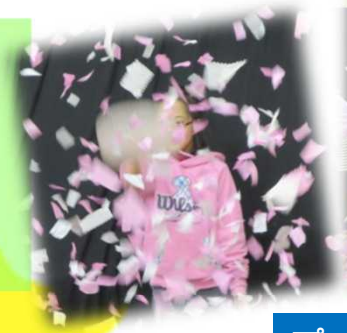
○障害児が分かりやすいように、明確な指示・簡単な内容に配慮し、誰もが楽しめる内容である。
○子どもたちが、それぞれに楽しみ方や遊び方が違っても、同じ空間で楽しい時間を共有できる。
○活動は、１人でも楽しいが基本。メンバーがいることで、遊びが広がり、さらに楽しさが増す。
○障害児には、ボランティア１名が付き添うことで、細やかな対応ができる。
○障害者施設の職員に相談をし、活動にアドバイスをもらうことで、支援時の配慮点を確認できる。
○ボランティアとの協働。ボランティアの力を生かすことで、様々な体験をさせることができる。

取組の効果・利用者の声

○職員とボランティアは、事前に打合せで児童の情報共有を行い、留意点の確認をする。障害児を預かり時に、保護者から児童の様子を聞き、終了時は活動中の様子を伝えることで、児童も保護者も安心して活動に参加している。
○同じ地域に住む子どもたちが通う学校と関わりなく交流し、知り合うことができる。障害児の保護者から、街中を歩いていて子どもが声をかけてもらえるようになって嬉しいとの声がある。
○子どもたちは、「とっても楽しい。また、やりたい。」と、毎年活動に申込をしてきている。
○グループ活動にすることで、長期的に同じ児童が交流するため、健常児が障害児について自然と理解し、障害を児童の特性として捉えるようになっている。
（ex.「あの子は、大きい音がなると嫌なタイプだからね。」）

プログラム①「ひらひらタイム」

職員が、京花紙を手に乗せて吹いて飛ばし、子どもに促します。雪のように降らせてみたり、うちわで扇いで舞うようにしたり遊ぶ方法を伝えます。そのうちに、子どもたちは、京花紙が花吹雪のように舞う中で、とび跳ねたり、眺めていたり、舞わせることに一生懸命になったり、頭から紙をかぶったり、それぞれが楽しみ方を見つけて遊び始めます。



プログラム②「おんがく遊び」

ボランティアが指揮者となり、子どもに音を鳴らすタイミングを伝える。ひとつの曲をみんなで演奏したり、歌ったりする。自分の番がくるまで、楽器を鳴らさずに待ち、他の人の音を聴く。自分の番では、楽器を弾く楽しさを味わう。メンバーの音を聴いたり、タイミングを合わせたり、和音を奏でたり、誰かと一緒にやるという経験ができる。みんなで1曲演奏できると、とても達成感がある。子どもたちは、「次はこの楽器がやりたい！」と、とても楽しんでいる。

東京都新宿区
北新宿第一児童館

ふれあい動物園

概　要

○　近隣の公園に年に1回、移動動物園が来て、障害のある児童もない児童も普段なかなか触れ合うことのできない動物とふれあい体験をすることにより、乳幼児親子から高齢者までが共に楽しむ交流の場とする。

○　動物とふれあうことで命の大切さや思いやりの心を学び、地域の方々との連帯感による交流の輪を広げ、互いに支えあい、助け合うという地域の絆を育てる機会とする。

ポイント

○　新宿という都会に日常の中では、なかなか触れ合うことのできない動物たちと、動物アレルギー等に配慮しながら、触れ合いを通じて、子どもたちに喜びと感動を与え、生きる物を愛でる心の優しさ、思いやりを育みます。

○　地域の乳幼児親子から高齢者までが、来て、見て、体験できて楽しめる内容となっています。

取組の効果

○　動物との触れ合いで、普段見せないような豊かな表情も垣間見ることができた。

○　より多くの児童及び地域住民への児童館活動に対する理解を深め、地域社会とのつながりを深められました。

○　動物との触れ合いを通じて、生き物の命の大切さを学び、生きるものへの優しさや思いやりを育むことができました。

○　地域における「人と人とのつながり」が深められました。

参加者の声

○　動物園に行かないと触れ合えない動物と触れ合うことができて、実際に触ったりエサをあげることができて楽しかった。

○　普段体験できないことができて、子どもにとって良い経験となった。

○　子どもから大人までが楽しめる行事なので今後も継続してほしい。

愛知県名古屋市
とだがわこどもランド

ドレミであそぼう

概　要

○　音楽療法の先生をお招きして、音楽を聴いたり歌ったり、児童館にある楽器を鳴らしたりする中で、心やからだを刺激し、生活をより豊かにしていくための手助けをするという音楽療法的アプローチを通じて、子どもたちの成長をお手伝いするというプログラムです。

○　対象は、障がいのある未就学の子どもとそのお母さんなど対象に月１回10組程度です。

ポイント

○　毎月使う楽器を変えて、変化を楽しんでもらえるようにしている。

○　ピアノの音に合わせて、楽器を自由に鳴らしたり、からだをゆらしたりして耳だけでなく、全身で音楽を楽しんでもらえるよう工夫している。

取組の効果

○　子どもたちの顔が笑顔になっていることで、いっしょに参加している保護者の顔も笑顔になっている。

○　保護者同士の交流や情報交換の場ともなっている。

参加者の声

○　楽しかった。

○　楽器に慣れて、音を楽しむことが出きるようになってよかった。

○　家にはない楽器に触れることができて良いと思う。

京都府京都市
北白川児童館

「『いきいき遊び』ー木とリスー」

ー障害のある子と一緒にー

概　要

○　当館では、小学生を対象に『いきいき遊び』と名付けて、集団遊びの取組を行っており、「木とリス」は発達に遅れのある子どもも一緒に楽しめる遊びである。

○　集団（30人以上・3の倍数＋1名）で、三人一組となってそのうち二人が向かい合って手をつなぎ「木」に、一人がその木に囲まれた「リス」に、木とリス以外の1名が「オニ」となり「オニ」の発する下記の3種類の掛け声に合わせて移動し、木かリスにおさまることを競って楽しむ。

ⅰ　「オオカミが来た」→木はそのまま動かず、リスが移動し空いている木を見つけてその中に入る。

ⅱ　「木こりが来た」→リスはそのまま動かず、木が移動し別の相手を見つけてリスを囲む。

ⅲ　「大嵐が来た」→木もリスも一斉にばらばらになり、前段での木やリスにこだわらず三人一組の一角を占める。

ⅳ　いずれの場合もあぶれた者が「オニ」となり、次のかけ声を掛ける。

ポイント

○　集団としての「助け合い」や友だちへの「思いやり」を育み、参加した皆の気持ちが一つになることを目指す。

○　ゲームの始めに自分自身が三人一組の中におさまるだけでなく、全体としてできるだけ早く元の形に戻れることも求められていることを伝える。

○　そのためには、まわりの友だちに声を掛けたり手をつないだりすることが大切であることを子どもたちに伝える。

取組の効果

○　子どもたちは障害のある子どもに「こっちこっち」などと声を掛けたり、手をつないだりして、助け合いや思いやりの力を発揮し育むことができる。

○　障害のある子どもにとっては、友だちからの声掛け等により、遊びの中に入ることがスムーズになり、集団の一員として『集団遊び』の楽しさを実感できる。

参加者の声

○　リスになった時、木があいているところを見つけるのが面白かった（小1男子）

○　大嵐の時に一緒になる人が変わったのが面白かった（小3女子）

○　大嵐の時、迷っている友だちの手を引っ張ってあげて一緒に木になれて良かった（小4女子）

○　みんなで一緒に遊べて良かった（小2男子）

○　オニになって、「大嵐が来た」と言って友だちを助けたかった（小3男子）

京都府京都市 たかつかさ児童館

～幼児から小、中、高校生までがチャレンジする「和太鼓」に取り組んで～

概　要

3歳児から高校生までの異年齢の児童が「和太鼓」にチャレンジし、練習を重ね腕を磨いている。3歳児から就学前の児童は毎週水曜日午後3時半より4時半までの教室で楽しく太鼓をたたく。幼児に1時間は長いので必ず他の遊びも取り入れ実施している。小学生は3年以上が対象で毎週土曜日1時から2時に実施。中高生は、土曜日の夜間開館時に各種イベントの出演前の時期不定期に集中練習を行い、出番に備えている状況である。

和太鼓の指導には長年近隣の立命館大学の和太鼓クラブの学生が当たり、卒業しても次のメンバーに指導が引き継がれてきた。現在は職員が指導できる力量が育ち、自前で指導体制が取れるようになっている。

ポイント

○ 「幼児クラブ」 ➡ 和太鼓をたたくのは「楽しい！」と思えるような導入を工夫する。例；アニメ等のテーマソングに合わせ自由に叩く。好きな果物の名前を言いながら叩くなど。

「小学生クラブ」 ➡ 高学年がかっこよく叩く姿を見せる。それを目標に初心者も練習に励む。中々リズムに合わせられない児童には、より簡単なリズムを指導する。ここでも「楽しくたたくこと」を大事にする。

「中高生クラブ」 ➡ 「楽しく響きあう！」ことを目標にお互いを意識しあいながら、呼吸を合わせ叩きあう。

○ みんなが一堂に会して練習の成果を発表しあえる「機会」を設ける。（広報を行いたくさん地域住民に見に来てもらう）

取組の効果

○ 幼児から高校生までの異年齢が同じ体験を通じて交流ができ、お互い刺激しあえる関係ができる。地域では大人のサークルもできている。

○ 障害のある児童もその子の状況に合わせて様々な工夫をし一緒に取り組んでいく中、続けて参加する中で高学年になると、他の児童と同じように楽しんで叩けるようになり「自信」が生まれている。

ステージ発表を終えて

ドキドキしたけど、拍手をいっぱいもらってうれしかった！まちがわへんかったで！（小5男子）

保護者の声	地域の方
とっても上手に叩けるようになっていて嬉しいです。家でも自慢してくれます。学校の先生にも「見に来て下さい」と言って来てもらってました。（育成学級男子の保護者）	太鼓いいね～！すばらしい。ぐんぐん響いてくるわ！小さい子たちかわいいね。あんなに小さくても叩けているやん！びっくりやね。

兵庫県神戸市
上野児童館

街歩きお散歩探検

概　要

○　障害のある無しに関係なく、自分たちの住む町をお散歩し、町の様々なことを知り･学び、その良さを体験して、少しでも自分たちの町に興味を抱くようになり、結果、この町を好きになってもらい、健やかに育っていくようにする。

ポイント

○　史的な場所、生活の中でなじみ深い場所、学びのヒントとなる場所等をめぐりながら、様々なことを体験し、何かに興味を抱くきっかけを作る。

取組の効果

○　障害のある児童とふれあうことにより、少しずつ障害のある児童の存在も特別な存在ではなく、あたりまえのように思えるようになった。

参加者の声

○　A君の保護者「その日、帰ってきたらとても楽しかったようで、たくさん話してくれます、これからもよろしく」

大分県日出町
日出町児童館

障がい児の余暇支援活動

概　要

○　スポーツチャンバラでは、障がい児と健常児が一緒にスポーツチャンバラを通して交流します。
○　野外活動では、川遊びでできるサポートについて学習した子どもたちと、発達障がいを持っている子どもたちが一緒に川遊び(川流れ体験、カヌー体験、ボート体験)を行います。
○　音楽活動では、別府溝部学園短期大学ハンドベル部のみなさん、発達障がい児と共に歩む会「つむぐ」の協力を得て、障がいを持つ子どもの、きょうだい児にも参加してもらい、スマイルクラブ(リーダー育成クラブ)プロデュース、お楽しみ会を実施します。

ポイント

○　児童館と、NPOの協働事業として、地域の支援学校、障がい児のデイサービス等の協力を得ながら、児童館の子どものリーダー育成、また児童館を拠点として活動している子育てサークル「つむぐ」(発達障がい児と共に歩む会)の支援を絡ませながら実施。

取組の効果

○　「障がい」に関わる活動が、NPO等の専門家の協力を得て実施することで、児童館のネットワークが広がり、障がいに対する啓発や理解の過程を持つことで、子どもたちの意識が変わっていく姿が見られた。
○　スマイルクラブ(リーダー育成)メンバーがボランティアリーダーとして、福祉体験活動を行うことが定着してきた。
○　参加者が徐々に増え、居場所作りの第一歩となったと感じる。
○　障がいのある子どもの、きょうだい児の支援も必要であると感じた。

参加者の声

(子どもたちの声)
○　障がいを持っている人や困っている人がいたら、積極的に声をかけようと思った。
○　色々な人を差別せず、一緒に遊びたいと思った。

(協力者の声)
○　自然に子どもたちが打ち解けあっていた様子は素晴らしかった。

(保護者の声)
障がいをもつ子どもの親
○　普段できない体験をさせてもらった。家で楽しかったと子どもが話してくれた。
○　障がいを持った子は、余暇を(気兼ねなく)過ごす場所がなく、家にいることが多い生活だが、このような遊ぶ場所、何も気にしなくても遊べる場所があると嬉しい。
健常児の子どもの親
○　障がい者について、学び、考える機会はあっても、実際に「何かを一緒に」という機会はありません。学校では、1学年1クラスの学級で気心が知れた仲間と過ごす毎日です。今回、障がいのある方と多くの人と一緒にいろいろな活動を通して交流することができました。子どもたちにとって、貴重な体験ができたと感じています。